

新刊  
3/5発売

東日本大震災から14年、能登半島地震から1年  
災害大国で生きる全ての人へ届けたい。



震災後を生きる13人の物語

フクシマ、  
能登、

そして  
これから

藍原寛子  
Hiroyo Aihara

# フクシマ、能登、 そしてこれから

震災後を生きる13人の物語 藍原 寛子 著

『婦人之友』誌上での好評連載「10年後のフクシマ」で伝えた、被災して生きる人々を再訪。また、2024年の能登半島地震後の能登で、現地の声を聞く。人々の言葉は、私たちに深く響きます。

から国福被内  
ら国島災外  
あ際島地  
なジャーの  
たナ住の  
へリス歩  
トス、  
——あさのあつこ(作家)

四六判 240 ページ 1,650 円(税込)



作家・高村薫さんとの対談  
「未知を生きる 原発を抱えた国  
で」(『婦人之友』2016年4月号)  
を再録。



何かに行き詰まった時、未来が見えなくて落ち込んだ時、本書のフクシマと能登の人々の言葉を思い出してみてください。

それらは暗闇の中にあっても、絶え間なく灯り続けたいまつとなって、私たちの人生の行く先を照らしてくれるはずです。——おわりにより

目次より

——フクシマ——

- ◆災害後を生きる人々をつなぐ映画館  
阿部泰宏さん(福島市)
- ◆安全かどうかは私が決める  
片岡輝美さん(会津若松市)
- ◆失われ、消えゆくふるさとを歌に遺す  
三原由起子さん(浪江町出身)
- ◆「原発反対」を生き続ける漁師  
志賀勝明さん(相馬市)

- ◆子どもを被ばくから守りたい  
水戸喜世子さん(大阪府)
- ◆いわきの言論空間を豊かに  
大越章子さん(いわき市)
- ◆国産原爆のウラン採掘を伝える  
前田邦輝さん(石川町)
- ◆原発を問うた詩人  
若松丈太郎さん(南相馬市)
- ◆平和と震災を語る講談師  
神田香織さん(いわき市出身)

——能登——

- 伝統の漁とウェットスーツ 輪島の海女たち  
早瀬千春さん(輪島市海士町)
- 被災の現実を伝えたいと対話し続ける  
塚本真如さん(珠洲市)
- 珠洲の海の美しさをともに守りたい  
砂山信一さん(珠洲市)
- 原発誘致をしなくても暮らせる能登を  
北野進さん(珠洲市)



藍原 寛子(あいはらひろこ)

ジャーナリスト。福島県生まれ。福島民友新聞記者を経て Japan Perspective News を設立、内外に発信している。阪神淡路大震災、東日本大震災で支援・取材活動を重ね、能登半島地震では直後から被災地に通り、被災者の様子を伝える。2014年『婦人之友』に「福島がいま」、21年「10年後のフクシマ」を連載。2024年、被災地取材などにより日本外国特派員協会の報道の自由受賞。福島在住。

ご注文はホームページまたは FAX、TEL にて承ります。

ご注文主様

お名前(ふりがな)	住所 〒
.....	.....
.....	.....
TEL	

フクシマ、能登、そしてこれから  
1,650 円(税込)  
\*送料は 300 円

冊

〒171-8510  
東京都豊島区西池袋 2-20-16  
婦人之友社

FAX 03-3982-8958 TEL 03-3971-0102  
E-MAIL: tsuhan@fujinnotomo.co.jp HP: https://www.fujinnotomo.co.jp/

